

後ろ向き観察研究

患者さんへの情報公開文書（ホームページ用周知文書）

研究題名：大動脈瘤術後の脊髄虚血による対麻痺に対する緊急脳脊髄液ドレナージ術の検討

●はじめに

大動脈瘤の外科的手術療法後には、脊髄虚血による対麻痺が稀ですが発生することがあります。近年、このような対麻痺の予防に脳脊髄液ドレナージ術が効果的であることが知られてきました。しかしながら、緊急手術の後や予期せぬ対麻痺の場合、手術の前に脳脊髄ドレナージを行うことができませんので、確立された治療法はリハビリのみでありました。札幌医科大学心臓血管外科では以前より脳脊髄ドレナージ術に注目し、緊急手術や予期せぬ対麻痺の患者さんにも脳脊髄ドレナージ術を行ってきました。本研究の目的はこのような緊急の脳脊髄ドレナージ術が術後の対麻痺改善に効果があるか評価することです。

●研究対象のご説明

札幌医科大学心臓血管外科で2007年1月1日から2017年12月31日までに、大動脈瘤に対して手術加療を受けられ、術後に重度の対麻痺を発症された40名の患者さんを対象としております。

●研究内容と患者さんに日常診療以外の負担や経費が生じないことの説明

当科での入院時及び外来での検査データを用いて研究を行います。尚、この研究を行うことで、対象の患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。

●患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐために、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施経過及び、その結果の公表の際には(学会や論文等)、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

●患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2007年1月1日から2017年12月31日までの間で、当院で大動脈瘤の治療を受けられ、術後対麻痺を発症された患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。ただし、あなたからのご連絡を頂いた時点ですでに研究結果が論文等に公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には解析結果からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなりますのでご了承ください。

●利用する情報

カルテ情報（診断名、手術時年齢、性別、既往歴、手術情報、入院期間、術後合併症など）、CT 検査画像など

●研究期間：病院長承認日から平成 30 年 12 月 31 日まで

●医学上の貢献

大動脈瘤の治療に関して、新たな治療法の一助になり、今後の患者さんの治療と健康に貢献できます。

●問い合わせ先

〒060-8543 札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

札幌医科大学附属病院 心臓血管外科

研究責任者：心臓血管外科 助教 仲澤順二

連絡先： 代表：011-611-2111

【平日】札幌医科大学 心臓血管外科教室（内線 33120）

【休日・夜間】5 階北病棟看護室（内線 33210）